

上の寺遺跡発掘調査調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 2007.10.21

調査要項

遺 跡 名	上の寺遺跡（かみのてらいせき）
所 在 地	山形県寒河江市大字慈恩寺字上の寺
遺 跡 番 号	平成 16 年度新規登録
調査委託者	山形県（村山総合支庁産業経済部西村山農村整備課）
調 査 原 因	農免農道整備事業（寒河江中央地区）
現 地 調 査	平成 19 年 5 月 16 日～平成 19 年 10 月 26 日
調 査 面 積	3,650 平方メートル
遺 跡 種 別	寺院跡・集落跡
時 代	奈良、平安時代・中世
遺 構	溝・堀・土坑・柱穴等
遺 物	中世陶磁器・石製品・金属製品・土師器・須恵器・石器
調査担当者	調 査 課 長 長橋 至 専門調査研究員 伊藤邦弘 調 査 研 究 員 高桑 登（調査主任） 主任調査研究員 今田秀樹
調 査 指 導	教育やまがた振興課文化財保護室
調 査 協 力	山形県教育庁村山教育事務所・寒河江市教育委員会・寒河江市農林課・慈恩寺観光振興会



遺跡位置図（1/50,000）



D区の平場と箕輪道（北東から）

1 調査の概要

上の寺遺跡は、国指定重要文化財の薬師三尊や十二神将で有名な寒河江市の慈恩寺近くに位置しています。遺跡の周辺には古くは薬師三尊・十二神将を納めた薬師堂もんじいんがあったとされています。薬師堂は後に聞持院と称しました。江戸時代の初めには聞寺院は廃れ、薬師三尊は現在の本堂脇に移されました。現在遺跡周辺に残る地形や伝承に、その名残をとどめています。

慈恩寺は神亀元年（724）、行基の開山と伝えられます。平安時代には摂関家藤原氏や平泉藤原氏、鎌倉・室町時代には寒河江荘地頭の大江氏、戦国時代から江戸時代の初めには最上氏の保護をうけ、繁栄しました。その間、永仁 4 年（1296）、永正 5 年（1504）などの火事で建物が失われることもありました。

遺跡は慈恩寺のある山の東側山腹に位置し、斜面を造成した平場が連続しています。現在その平場は、さくらんぼなどの果樹園として利用されています。遺跡を縦断するように、慈恩寺から箕輪集落へ続く「箕輪道」と呼ばれる道路が通っています。今回の調査原因となった農道は、その箕輪道にほぼ沿った形で建設されます。

調査はまず現在の地形を記録するための測量から実施しました。測量後、重機を使用しての表土掘り下げ、人力での遺構確認・掘り下げなどの作業を行いました。随時写真や図面等で記録を取りながら作業を行なっています。細長い調査区のため、工事の工程等にあわせて、残土置き場を確保しながら、調査区ごとにこの作業を繰り返し実施しました。重機の入れない場所は、最初から人力で掘り下げを行いました。

2 見つかった遺構と遺物

A区 上の寺遺跡の中心部と考えられる土塁に囲まれた地区に隣接しています。広い平場と谷状に低くなる地形の境界部に当たります。谷の部分では、地面を削って平らな部分を作り出した痕跡が見つかりました。

平場部分では、土塁に直交して掘られた溝が見つかりました。溝からは、板碑・宝篋印塔・五輪塔いたび ぼうきょういんとう ごりんとうが出土しました。溝は土塁の裾で途切れており、土塁と同時期に存在していたことがわかりました。

B区 遺跡の中心部から一段下がった平場です。調査区の西端で 8 m×6 m ほどの不定形の大きな遺構が見つかりました。中からは沢山の石や焼けた土が出土しています。その他、青磁や越前焼など中世後半の遺物が出土しています。

調査区の東側では掘立柱建物の一部が見つかりました。

C区 上の寺遺跡の南東部を限る斜面部分です。急な斜面に多くの小さな平場が造り出されています。重機の進入が困難だったため、人力によるトレンチ調査を行いました。断面の観察からは、新しい耕作土が厚く堆積し、現在見られる平場の多くは後世の耕作のために造られた可能性が高いことがわかりました。部分的に石を敷き詰めた場所や、排水のためと考えられる溝などが見つかりました。

D区 B区から連続する平場と、さらに一段下がった平場です。上下の平場の間には「箕輪道」が通っています。多くの柱穴や土坑が見つかりました。斜面際の大きな土坑からは平らな石が多く出土し、礎石の建物があったことをうかがわせます。

調査区の北端部では、現在の地形に残る細長い区画に連続した大きな溝が見つかりました。この溝や地形が上の寺遺跡の中で、大きな区画として意識されていたと考えられます。

また、箕輪道の両側に掘られた側溝が見つかりました。近現代の遺物が出土し、近年まで整備されながら使われていたことがわかります。

3 まとめ

今回の調査では、現在の地形とその地下に埋もれた地形を比較することによって、一帯の土地利用の歴史の一部がわかってきました。現在見られる段々畑状の地形の多くは、江戸時代以降に作られたと考えられます。しかし、その下からは、薬師堂や聞寺院があった時代の人々の活動の痕跡を確認することができました。さらに中世以前の平安時代や縄文時代の遺物も出土し、長い間人々の生活の場であったことがわかりました。

調査は来年度も継続して実施し、得られた成果はその後報告書にまとめていきます。



近世の遺物（16 世紀末～18 世紀）



中世後半の遺物（15～16 世紀）



中世前半の遺物（13～14 世紀）



中世以前の遺物

